

研究に関する情報公開

研究課題名

JCOG0701A2

T1-2N0M0 声門癌における EpCAM と放射線治療の予後に関する研究

研究代表者

昭和大学医学部 放射線治療科

加賀美 芳和

研究事務局

国立がん研究センター中央病院 放射線治療科

村上 直也

国立がん研究センター中央病院 放射線治療科

連絡先：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

電話 03-3542-2511, FAX 03-3545-3567

研究対象:

以下の JCOG (Japanese Clinical Oncology Group 日本臨床腫瘍研究グループ) 放射線治療グループの試験に参加された方が対象になります。

- JCOG0701 「T1-2N0M0 声門癌に対する放射線治療の加速照射法と標準分割照射法のランダム化比較試験」

研究の概要:

放射線治療前に採取された腫瘍組織は病気の診断のために利用されますが、その検査が終わり、残った腫瘍部分をこの研究に利用します。具体的には、放射線治療への抵抗性と関連があるといわれているがん幹細胞のマーカーの一種である Epithelial cell adhesion molecule (EpCAM) というタンパク質、放射線治療への感受性が良いといわれているヒトパピローマウイルスの感染を示す p16 というタンパク質、そして悪性腫瘍全般でよく知られたバイオマーカーであり、がん抑制遺伝子の一種である p53 の発現を詳しく調べる予定です。

研究の意義:

早期声門がんの標準治療は放射線治療であり、放射線治療により治癒が期待できます。しかし、残念ながら一部の患者さんでは放射線治療を行っても再発を生じる場合があります。これまでのところ放射線治療を受けた患者さんに再発が生じるかどうか、あるいは長く生存できるかどうかを予測する指標（「予後因子」といいます）として信頼できる因子は見つかっていませんが、その候補となり得る因子がこれまでの研究でいくつか報告されています。

目的:

本研究では、タンパク質の一種である EpCAM、p53、p16 が腫瘍組織で発現しているかどうかと放射線治療後の結果を比較検討することにより患者さんの予後因子となり得るかどうかを目的とします。

方法:

放射線治療の前に採取された腫瘍組織の一部を使用します。ホルマリンで固定された病理標本を薄く切って作られたスライドを用い、タンパク質の発現量や分布を組織上で直接

観察できる めんえきせんしよくほう 免疫染色法 を行います。さらに、あなたに参加いただいている JCOG0701 試験で得られた診療情報をあわせて使わせていただきます。

個人情報保護に関する配慮:

「人を対象とした医学系研究に関する倫理指針」に従い、倫理面に充分配慮して研究をすすめます。

研究の過程や結果公表の際には、データセンターで厳重に保管されている氏名、生年月日、カルテ番号などの情報を削除し、患者さん個人を特定できない状態で解析を行い、結果を公開します。患者さん等からのご希望があれば、その方の検体や臨床情報は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 放射線治療科 村上 直也

電話 03-3542-2511, FAX 03-3545-3567